

第2回北区基本計画策定懇談会 摘録

- 1 日時 平成22年8月27日（金）14:00～16:00
- 2 場所 京都市北文化会館第1・2会議室
- 3 出席者 市川座長，三谷委員，岩井委員，片岡委員，北川委員，黒田委員，田口委員，谷田委員，田上委員，堂上委員，中川委員，永野委員，納屋委員（代理出席），森委員，大森区長

4 議事録

[開会]

事務局

（開会，委員交代のお知らせ）

大森区長

（挨拶）

事務局

（欠席委員の紹介）

[議事]

◎基本計画素案について

事務局

（資料説明）

市川座長

本日の資料の体裁で製本されるのか。

事務局

本日の議論を踏まえて見直しを行う。また，9月2日に予定されている座長会の意見も踏まえて直し，パブリックコメントを経て確定していく。素案の体裁は本日の資料の形となる。

森委員

素晴らしいものにまとめられている。「北区のまちの姿」で天然記念物が書かれているが，すてきなものであるので，「歩くまち」や「文化」の部分でも記載したほうがよいのではないか。

掲載されている学区別人口は国勢調査の数値だと思うが，地域が把握している本来の数字とは紫明で700くらいの差がある。この差の原因はマンションなのか学生なのかわからないが数値には疑問がある。

まちづくりの取組において，気になるのは，出雲路学区のことである。小学校がなくなり，元町，紫明，室町，京極に分かれて登校している。約2,400人のうち約1,000人

が上京区の方々と地域活動をしている。そのような状態が福祉の募金活動等で様々な問題を生んでいる。区と連携して検討してきたが、紫明通より南が上京区にならない限り問題は解決しない。出雲路学区解消、分区について陳情したが、否決されてしまった。北区民でありながら北区で活動できない事情がある地域があることもご承知いただきたい。

事務局

天然記念物については、ご指摘を踏まえたい。世帯の差については、学生マンション等の影響と考えられる。

市川座長

出雲路学区の問題をどう扱うかについては、事務局でご検討いただきたい。

岩井委員

感想を述べる。この計画の基本的な構成は、地域力と3つのプロジェクトと分野別施策の三段構えになっている。それぞれを読むとなるほどと思うが、3つのプロジェクトと分野別施策・取組の関係がわかりにくい。3つのプロジェクトには、主な取組も含んでいるが、分野別の取組も10ある。この関係がはっきりしない。例えば、「9便利で快適な生活基盤の整ったまちの創造」に道路環境、交通システムなどが主要な取組例としてあるが、これらは3つプロジェクトに含まれていない。これをどういう解釈したらいいのか。3つプロジェクトがキーワードになっているのだと思うが、このキーワードが全体に効いていないのもったいない。10の施策・取組が地域力を向上させていくということはよくわかるのだが。

事務局

ご指摘の点は、これまで事務局でも座長会でも議論になってきたところである。P10で将来像の実現にむけて具体的に進める施策が卵の部分。10のカテゴリにわけて整理している。特にその中で、キーポイントとして3つの柱をたてている。シンボリックな3つにまとめたものが3つ力を向上させるためのプロジェクトという考え方である。

大森区長

道路環境や交通システムは大事なことであるが、3つのプロジェクトについては、端的にイメージしやすいわかりやすい施策を入れている。道路環境づくりは環境力を高める取組ではあるが、関係が強いとは言えないと思い、入っていない。いずれの施策についても3つのプロジェクトを視野に入れて位置づけている。

ただ、ご発言の趣旨は十分理解できる。計画素案の構成に問題があるかもしれないので、事務局に検討するよう指示したい。

田口委員

今の点については、資料2概要版を見るとわかりやすいと感じた。

出雲路学区については、私が選挙管理者を努めた際に意見を聞いたことがある。難しい問題だと思う。

田上委員

分科会で議論した内容で漏れがある。一つはコミュニティの関係で地域からの情報発信とはあるが、地域から外への発信だけでなく地域内での情報収集、地域の中での情報共有が必要である。例えば、インターネットを使える高齢者を増やすなどの取組などを構築して、高齢化に対応した地域に根付いた安心なまちにすることが必要である。

もう一つは「行政」という括り方について、例えば、放課後学び教室のアドバイザーをしているが、これは、教育委員会の指導が厳しく、教育委員会抜きにしては意味がないことである。学生によると限定しているが、我々としては、地域によるという感覚である。

また、北区役所が調整役となって保健センターや教育委員会などとの連携の中で北区をどうしていこうかいろいろ考えられていると思うが、我々が見る限り、文書でも区役所だけが取り仕切っていくような感じをうける。それでは無理が生じるのではないか。

事務局

P16に「インターネットを活用した地域情報の発信と区民交流」を入れており、ここでは、地域コミュニティに向けた取組としても位置づけている。

市川座長

「情報共有による区民交流」にするとよいのではないか。

岩井委員

5章において、財政的な措置に関する記述は必要ないのか。10の施策・取組は素晴らしいと思うが、絵に描いた餅では困る。10年間で少なくとも半分は実現してほしい。ただで事業は進められないが、大丈夫なのか。

事務局

主体がいろいろある。4に記載しているように、具体的取組は毎年の運営方針で定めることとしており、取組に必要な予算は、区役所として毎年財政当局に要求していくことになる。

大森区長

10の施策・取組が少し抽象的との印象からのお尋ねかと思う。

これがもし、区役所・行政としての計画であれば数値目標がないと意味がないと思うが、今回は、行政にさせることも含めて北区のまちづくりにおいて、誰がやるのかは別にしてクリアしないといけない課題があり、それを役所だけでなくみんなで明らかにして、区役所の予算や人員がしんどければ別の誰かの力を中心にして、みんなで課題を克服していこうという計画である。お金がかかることもあるので行政が無責任に提案するわけではないが、お金がないからできないではすまされない問題も含めて、どうやっていくのかみんなで作えながらやっていきたいと思いますというご提案である。

永野委員

3つのプロジェクトはとてもいいと思う。ただ、まちづくりのイメージ図は、円錐に

なっているので、3つのプロジェクトの円錐もは真上でなく中心に向いている方がよいのではないか。

5章で最初に「共汗」があるが、この言葉には、共に痛みを分かち合うというようなイメージがあり、私としては抵抗がある。その後にある「区民が主人公のまちづくり」が前にあるほうが、みんなで作っていくまちづくりという印象が出ると思う。

大森区長

ご意見を踏まえ、検討を指示する。

市川座長

最後に形式的なところで注文したい。資料に使われている字体とフォントにばらつきがあるので、ふさわしいものを選んで統一してほしい。例えば、P10の将来像の文字は明朝体になっているが弱々しいのでゴシックで力強くすべきである。P13の下に明朝体があり、P18、19の「PR」も統一されていない。整理が必要である。

本日の意見を踏まえ、座長会議で協議し、素案としてとりまとめた。

◎今後のスケジュールについて

事務局

(スケジュールの説明)

[閉会]